



手にザクロの実を持って子をあやしています。
この話から「ザクロは人肉の味がするのかわ。」
と思う人も出てくるわけで、日本ではザクロの
木を庭植えにするのを嫌う傾向が見られました。
これこそ偏見。春の花の美しさといい、熟し
て割れた実の秋らしい風情といい、四季の変化
を楽しめる樹木の一つだと思います。

アンズ

早春、淡い桃色の五弁の花は鑑賞用に、初夏、黄色に熟した果実は食用になります。中国から伝来し、唐桃（からもも）と呼ばれました。

梅に似た実は、そのまま食べてもおいしいですが、大産地のアメリカなどでは、7割以上、干して保存食にします。

鯉のいる池の側、まだ小さいのに実はたくさんつきました。

学校便り 1月号 (7・1・9)

お正月ですので、松竹梅と気どってみましょう。

クロマツ

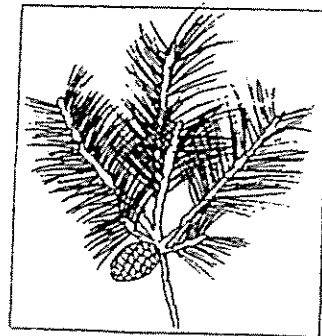
平安時代、正月初めの子の日、野外に出て若菜を摘んだり小松を引いて来て庭に植えたりして遊ぶ行事がありました。「子の日の遊び」と呼んでいましたが、そう言えば、百人一首にこれを詠んだものがありましたね。

門松を立てて正月を祝う習慣は、この行事の発展したものです。

樹齢の長さ、趣のある幹の曲がりぐあい、一年中変わる事のない濃い緑に、長寿にして「いや柴えよ。」と祈る心を重ねたものでしょう。

マツも種類は多くありますが、学校にはクロマツが3本、緊急車両の進入路に沿って植えられています。

クロマツをオマツとも呼びますが、ほったらかし



(画) 村山裕太

であるにもかかわらず遅く繁っています。因に、メマツはアカマツのこと。
庭木にすると、樹形を保つために冬には揉み上げ春には芽摘みと結構面倒で、この頃は、若い人には嫌がられるとか。
学校のは、ただ遅く育てと、野趣を大切にしています。

ササ

本校にはタケは見当たりません。しかし、クロマツの下一面にかわいらしく品の良いササが植られています。

クマザサの一種でヘリトリザサと言います。

ササとタケの区別はあるのでしょうか。丈が低く、茎の細いものをまとめてササと呼んでいるようですし、茎を利用できるのがタケ、葉を利用できるのがササであるとも言えそうです。

ササの葉には防腐作用が認められ、ササ団子、ちまき、等々、数日保存するような食品によく利用されていますね。そう言えば、寿司の間に挟んだあのビニールのぎざぎざも昔はササの葉を細工したものでしたね。

ウメ

うめいちりん いちりんごとの あたたかさ (嵐雪)

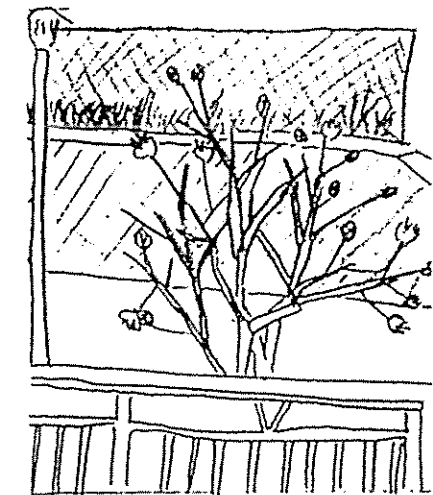
服部嵐雪は芭蕉門下にあつて知識の人として有名です。

この辺では二月の中頃でしょうか。

寒さの最も厳しい中で、蕾がふくらむことは春がふくらむこと。ぽつと弾けた花の暖かさは冬ゆえにひとしおです。「暗香浮動」、夜の闇の中に漂う香にはふと驚きを感じさせられます。日本の名花ウメ。

クロマツの付近に2本と通用門脇1本植えられています。3本とも白梅ですが実はあまり見られません。花粉の少ない種類の梅です。

また、温室の横に、真夏小さな赤い実をつける低木があります。ユスラウメです。この樹木もウメの仲間です。



(画) 毛利俊介